

博士課程教育リーディングプログラム 平成24年度プログラム実施状況報告書

採択年度	平成23年度		
申請大学名	慶應義塾大学	申請大学長名	清家 篤
申請類型	オールラウンド型	プログラム責任者名	長谷山 彰
整理番号	A03	プログラムコーディネーター名	大西 公平
プログラム名	超成熟社会発展のサイエンス		

<プログラム進捗状況概要>

1. プログラムの目的・大学の改革構想

本プログラムは、平成23年から平成29年の7年間に亘って、今後日本と世界が直面する超成熟社会を持続的に発展させるという21世紀の人類共通課題に、理工学、医科学、政策・社会科学が文理融合した、主専攻修士・副専攻修士・博士(MMD)、あるいは主専攻修士・博士(+副専攻証)(MD)の5年一貫大学院プログラムを構築する。骨太の専門に加え独創的な企画力と高いマネジメント力を持つ博士リーダー人財の輩出を目的とする。分野横断的な複合課題へ柔軟に対応できる大学院への組織改革や、21世紀COE、G-COE等26件の拠点形成型プログラムによりここ10年間で充実させてきた大学院の高度人材育成プラットフォームを持続的にさらに発展させ、今後の大学院改革のパイロットプログラムとするべく、本プログラムでは文理を横断した大学院研究科と外部産官との教育コンソーシアムが共鳴して博士人材育成とそのキャリア形成を進めるという、従来にない野心的な取り組みを展開する。

2. プログラムの進捗状況

本プログラム開始初年度(平成23年度)は、12月からの開始となったため、平成24年度4月に初めて履修生(RA(Research Assistant)として雇用)10名を採用した。以後は秋学期2名の追加採用を含め、当初の事業計画に沿ってプログラムを進捗させることができた。

即ち、4月にRA募集の最後の説明会、応募受付、選考、プログラム委員会による承認、合格発表およびガイダンスを実施し、カリキュラムに沿って講義を開始した。同じく4月にキャリアパス講演を開始した。また、4~5月にかけて、教育コンソーシアムへの参加企業等から派遣されたメンター(非常勤特任教授等として職位付与)6名によるメンター会議、RA参加によるメンター全員の自己紹介プレゼンテーションを経て、RAグループ分け(メンター1名対RA1~2名)を行い、本プログラムの大きな特色であるグループプロジェクト演習を立ち上げた。また、並行して、大画面・高品質音声による高臨場感と双方向リアルタイム・コミュニケーション機能を有したe-ラーニングクラウドシステムの整備・調整を進め、複数キャンパス間を繋いだ遠隔講義(高齢社会デザイン論等)および日吉西別館拠点での対面講義(グループプロジェクト演習、コミュニケーションスキル等)が毎週安定的に開講された。

加えて、5月末に本プログラムと教育コンソーシアムを繋ぐボード会議（メンバーは日本を代表する企業等の人事担当役員クラス）が開催され、6月には、情報発信を担うNewsletterの発行（1～2か月に1回）を開始し、本プログラムのホームページにも掲載した（平成24年度のアクセス回数は累計で2万回を突破）。7月には、プログレスミーティング（RAが主専攻の研究進捗を英語で発表）、および秋学期RA採用に向けた説明会を開始した。8月にはRA発表会（グループプロジェクト演習の成果を英語で発表）およびサマーキャンプ（1泊2日；春学期の成果をRAが英語で発表）を実施した。

9月には、秋学期RA採用説明会を再度行うとともに、応募受付、選考、プログラム委員会による承認、合格発表およびガイダンスを実施し、秋学期のカリキュラムに沿って講義を開始した。10月初めに、メンター会議を行ってグループプロジェクト演習の進め方を確認し、11月には海外インターンシップ活動および超成熟社会の鍵技術となるディスタンスオペレーション演習を始めるとともに、RAの主専攻指導教員との懇談会を開催した。12月には外部評価（評価者：オックスフォード大学教授）を行った。

1月に次年度春採用に向けた説明会を行い、2月からRA全員の海外インターンシップ派遣（4週間等）を開始し、その派遣中に日本とサンフランシスコとオースティンの3か所をeラーニングクラウドシステムで繋いでRA発表会を行った。3月には、ウィンターキャンプを開催したほか、学内外から多数の参加者を得てシンポジウムを開催し、平成24年度の活動実績を紹介するとともに今後のプログラムの進め方についてパネル討論を行った。併せて、RAの当該年度の成果や今後の計画についてポスター発表を同時開催し、社会への情報発信を進めた。全国44プログラムから参加があった博士課程教育リーディングプログラムフォーラム2012に教職員とRAが出席した。また、MMDシステムの推進に必要な副専攻修士学位の取得に関して学内で協議を重ねた結果、「リーディングジョイントディグリーに関する申し合わせ」を学内研究科の組織で合意することができ、3年～3.5年の期間に本学内で2つの修士学位を取得する学則が整備された。